

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

\*この広報は再生紙を使用しています。

世帯と人口

(5月1日現在)

世帯 44,298 (+186)

人口 119,208人 (+297)

男 60,848人 (+140)

女 58,360人 (+157)

# えびな

「イチゴみたい！」赤味を帯びた蕾を見るのは児童たちも初めて(右後ろがツバキ、左後ろが地藏堂)



えびな模様…杉久保から

## 「優しさ」伝える椿地藏

### 地域で守る文化遺産

杉久保の一角にある「椿地藏」。バス停の名にもなっているお地藏様と、傍らの樹齢約30年のツバキには、ある物語が伝えられています。

「元祿のころのはなし。武家の母娘が杉久保村を通りかかった際、娘の容体が悪くなり、介護の甲斐なく娘は帰らぬ人となった。哀れに思った村人たちは、お地藏様をまつり花を供えて供養した。そのとき供えた椿のひと枝が根付き、蕾(つぼみ)をつけるまで育ったが、不思議なことに毎年花が咲かないうちに落ちてしまう。村人たちは、若くして花咲くことなく亡くなった娘の心が椿に宿ったのだろうと、いつしか信じるようになった。」

「昔話のとおり、蕾は今も固いうちに落ちてしまっています。でも、今年の蕾は例年の倍(約2倍)の大きさで、30年ぶりに赤みを帯びていました。これが樹勢が復活する兆しだとしたらこんなに嬉しいことはありません」と話すのは、椿地藏を管理している善教寺の井上祥倫住職。樹勢を活性化させるため、樹木医に働きかけた地元の人で、いつも手入れを欠かしません。

椿地藏と地域の結びつきは強く、以前は、お地藏様を中心とした講もあって、杉久保以外にも多くの人がこの場所を訪れていたそうです。地元の人たちも、手が空くと代わるがわる世話をしていたが、時代の流れとともに講もなくなり、清掃をしてくれる人たちも高齢で減っていきました。それでも彼岸に行われる供養には、今でも20人近い人たちが集まります。

「武家の母娘を助けた村人たちの生活は決して楽ではなかったはず。おそろしく苦しい生活の中で互いに助け合っでいくうちに、他人を思いやる優しさが生まれたのでは」と、古者の1人は話します。物の豊富な今の時代に一番足りないのは、この優しさ、とも…。

椿地藏とそれまつわる話は、海老名の文化遺産のひとつ。一度訪れてみてはいかがでしょうか。

### 杉久保アラカルト

◎人口(5月1日現在)

9,496人

(男4,794人・女4,702人)

◎世帯

3,212世帯

◎面積

2.06平方キロメートル

【市全面積 26.48平方キロメートル】

◎地名の由来

杉がおい茂ったくぼ地がいたるところにあったため、この名がつけられたと思われる。